

希望が香る、広報誌。

みみはら

増刊号

新たなフィールドへの挑戦

～みみはら・ダヴィンチへの取組み～

ダヴィンチ
手術とは

3D映像と微細な手術器具を組み合わせることで、高い精度で手術を行うことが可能です。手術中、術者資格を持った医師がコンソールから手術を行い、ダヴィンチのアームが患部にアクセスして手術を行います。患者さんにとっても、従来の開腹手術と比較し、術中出血量、術後疼痛が少なく社会復帰が早いというメリットがあります。また低侵襲手術とされていた腹腔鏡手術と比較しても、手術創部にかかる負担が少ないため、術後の痛みが少なくより侵襲の低い手術と考えられます。

CONTENTS

- P02-03 骨盤臓器脱
- P04-05 前立腺癌
- P06-07 直腸癌

ひとりで悩まず、まず受診を

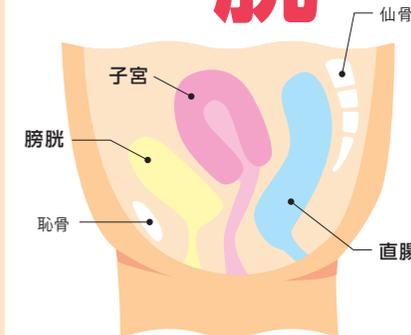
骨盤臓器脱

骨盤臓器脱は、骨盤内の臓器が膣や肛門から脱出してくる疾患です。



中高年の女性に多く、出産経験のある女性の半数がかかるといわれていますが、未産婦にも認められます。閉経前ですと婦人科疾患を想起しやすいのですが、閉経後ですと婦人科疾患とは思わずに、婦人科以外の診療科を受診されるケースもあり注意が必要です。

症状が単独もしくは複数ある場合、骨盤臓器脱だけでなく子宮筋腫・子宮腺筋症、子宮癌・子宮肉腫・子宮内膜増殖症・子宮内膜ポリープ・子宮瘤腫・卵巣癌・卵巣嚢腫などを同時に考える必要があります。



【正常】

疑われる症状

臓器の下降感
(子宮、膀胱など)

下腹部不快感
(膨満感、痛みなど)

排尿障害
(頻尿、尿失禁、残尿感など)

不正出血や帯下異常

臓器の下降感が主な症状で、下腹部不快感、排尿障害、不正出血や帯下異常のみの場合もあります。

特に不正出血や帯下異常を訴えるときは、癌・ポリープ・子宮内膜増殖症・筋腫・子宮瘤腫などを合併していることも。



「疑われる症状」がある場合は、婦人科疾患を疑って婦人科受診をお考えください。

◎骨盤臓器脱の種類



【子宮脱】

【膀胱瘤】

【直腸瘤】

【腔断端脱】(子宮全摘後)

【小腸瘤】(子宮全摘後)

発症や悪化の要因

◎加齢変化により骨盤底組織が緩みます

◎労働、家事、運動、便秘症などにより腹圧をかけることが悪化の要因です

◎高齢になっても労働を継続する方が増え、発症する方も増えているようです

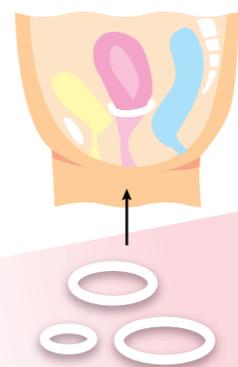
◎加齢により便秘症も増えるが、いきんで力を入れることによる発症もあります

治療の選択肢

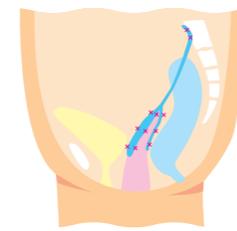
ペッサリーなど手術以外の療法で効果が得られない場合や感染症を併発する場合に手術法を選択します。症例に合わせて、古典的な骨盤臓器脱手術、腹腔鏡下仙骨脛固定術手術を選択します。

※現在当院産婦人科で実施できるロボット支援下手術は、子宮筋腫などの良性疾患に対する子宮全摘術、子宮脱や膀胱脱に対する仙骨脛固定術であり、認定資格を取得した術者2名、助手2名によって主にロボット手術に対応しています。

ペッサリーによる保存療法



腹腔鏡下仙骨脛固定術



NEW / ダヴィンチという選択肢

難易度が高くなる患者さんに対応出来るようにダヴィンチによるロボット手術を選択する様にしています。

腹腔鏡下仙骨脛固定術



近年日本でも急増しています

前立腺癌

前立腺癌は60歳以上の男性に発症しやすく、親族に前立腺癌の方がいる場合にも前立腺癌発症の確率が高くなります。

疑われる症状

初期の前立腺癌は症状がありません



進行した前立腺癌では骨に転移しやすく腰痛などの症状が出る場合が稀にあります。前立腺の大きさは個人差があり、おおよそ栗からゴルフボール位の大きさです。前立腺肥大に前立腺癌を伴っていると尿が出にくい、トイレが近い等の症状があります。これらは前立腺肥大の症状であり、前立腺癌特有の症状ではありません。よって、**前立腺癌を疑う特徴的な症状はほぼありません。**

前立腺生検にて前立腺癌と診断されれば、まず前立腺癌の転移の有無につき検査を行います（CT検査、骨シンチ検査）。治療方法は、前立腺癌の状態（PSA値、悪性度、進行度、転移の有無等）、年齢などを考慮して患者さんと治療方法を選択しています。

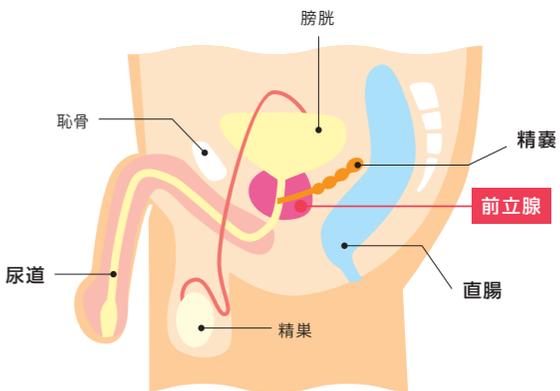
治療の選択肢

前立腺生検にて前立腺癌と診断されれば、まず前立腺癌の転移の有無につき検査を行います（CT検査、骨シンチ検査）。治療方法は、前立腺癌の状態（PSA値、悪性度、進行度、転移の有無等）、年齢などを考慮して患者さんと治療方法を選択しています。

NEW / ダヴィンチが有効な症例 (遠隔転移がない場合)

手術治療

遠隔転移がない場合、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術。腹部に約1〜2cmの穴を6カ所使用して前立腺を摘除する方法が選択できます。



検査方法について

前立腺癌の診断には健康診断・かかりつけ医や病院で、前立腺癌の腫瘍マーカーであるPSAを測定(血液検査)することが有用です。PSAが正常値(4ng/ml以下)より高値であれば前立腺癌の可能性がりますので、画像検査(MRI)、前立腺針生検(検査入院)をされることをお勧めします。

ただし、前立腺癌以外にも、前立腺肥大や尿の出方が悪いなどの原因でPSAが正常値より高値になる場合もあります。当科での前立腺針生検の特



その他の治療法 — CASE 1 — 遠隔転移が無い場合 放射線治療

※当院では放射線治療が無いため希望の方は近隣病院に紹介させて頂いております。
・IMRT：体外から前立腺に放射線を照射する治療(外照射治療)▼前立腺癌の状態にてホルモン治療併用
・小線源治療：放射線を出す線源を前立腺に挿入する治療(内照射治療)▼前立腺癌の状態にて外照射治療併用
・重粒子線治療：体外から前立腺に重粒子線を照射する治療(主に炭素イオンを用いた放射線治療)▼前立腺癌の状態にてホルモン治療併用

ホルモン治療

男性ホルモンを抑える治療▼3か月に1回の注射(皮下注射)と内服薬の併用▼治療期間基本的に1生(根治性は無く、手術や放射線治療を希望しない場合)

その他の治療法 — CASE 2 — 遠隔転移がある場合 ホルモン治療

男性ホルモンを抑える治療▼3か月に1回の注射(皮下注射)と内服薬の併用▼治療期間基本的には1生

抗癌剤治療

抗癌作用にて癌の進行を抑える点滴治療▼治療期間、癌の進行が抑えられている場合は継続

当科の特徴

- 【1. 診療】MRI・超音波融合画像による3D前立腺標的生検(バイオジェット)▼通常の前立腺生検と比較して2倍の癌検出率
- 【2. 治療】手術支援ロボット「da Vinci Xi」を用いたロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術の導入▼低侵襲手術治療の導入



徴としては、系統的前立腺生検(無作為に前立腺組織を採取

直腸癌

直腸癌とは、直腸内で発生する癌のことであり、早期発見と的確な治療が重要です。

疑われる症状

便秘や下痢

腹部の腫れ

便中に血液が混じる

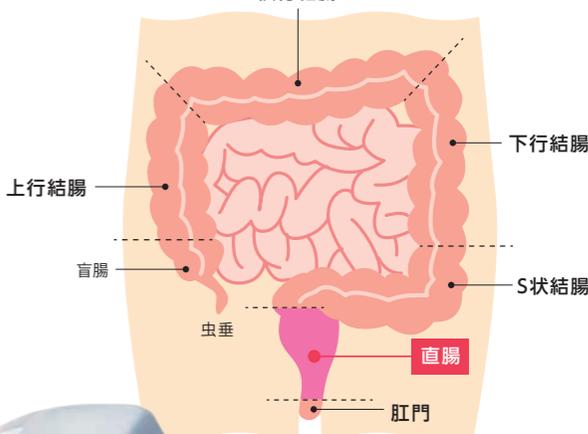


直腸癌の疑いがある症状としてはこれらが挙げられます。症状がある場合は早めに医師にご相談ください。

疾患について

直腸は、大腸の一部で、腸管の最後の部分に位置しています。直腸は、腹部の下部から骨盤の中にかけて伸びる管状の器官であり、排便時に便を貯

横行結腸



蔵し、排泄する役割を果たしています。直腸は、腸間膜や他の臓器に密接に隣接しており、周囲の組織や臓器に腫瘍が転移しやすい特性があります。

直腸癌は、その位置の特殊性から、症状が進行すると排便時の痛みや出血、排便の異常感などが現れやすいです。また、直腸の近くには神経や血管が豊富に分布しているため、腫瘍が周囲の組織や血管に侵入すると、合併症が生じやすい傾向があります。

NEW / ダヴィンチという選択肢

ロボット支援下直腸手術

ダヴィンチを用いた手術で、3D映像と微細な操作が可能。特に、肛門に近い直腸癌の手術において、ぶれない精密な

手術が実現し、周囲の組織や神経を最小限に保護しながら腫瘍を取り除くことができます。

手術範囲の限定や神経保護が必要な場合に素晴らしい効果を発揮し、患者の回復期間が短縮されることが期待されます。

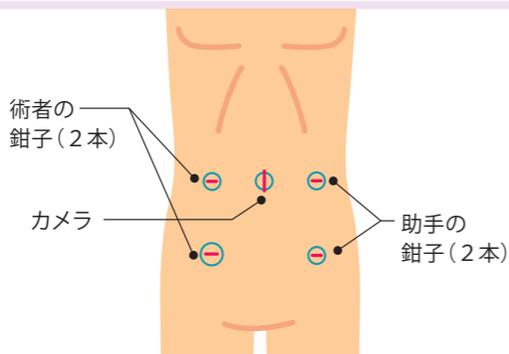
治療の選択肢

直腸癌の治療法は、他の癌と同じく、手術、抗癌剤による化学療法、放射線療法がありますが、基本は手術です。

その他の治療法

腹腔鏡下直腸切除術

腹腔鏡を用いて直腸を切除する手術。手術範囲が広がりやすいが、手術後の回復期間が必要です。



経肛門的アプローチによる直腸手術

肛門からのアプローチで直腸を切除。外傷が少なく手術後の回復が早い特徴があります。



当院では2023年12月、 手術支援ロボット(ダヴィンチXi)を導入いたしました。

ロボット支援手術と聞きますと、あたかも人間に代わってロボットが手術を行うかのようにイメージしてしまいがちですが、手術支援ロボットはあくまで手術を手助けする機器となります。

この支援手術は、患者さんから離れた位置にあるコンソールと呼ばれる操作機器を操作する医師の手の動きが、患者さんの体内でロボットアーム先端のさまざまな器具の動作に繋がりと、精密な手術を可能とする新しい技術です。

またロボット支援手術の利点は、精度が高く、繊細な動きが可能となります。さらに高精度な3D画像で術野の確認ができ、従来の腹腔鏡手術では難しい部位にもロボットアームにより柔軟に対応できます。

多職種にわたるスタッフが準備やシミュレーションを重ね、2024年3月の初症例を目指し万全の体制でスタートいたしました。現在婦人科手術、泌尿器科手術、消化器外科手術で活用しています。

このロボット支援手術によって患者さんの社会復帰が早くなる、というメリットがございますので、対応が可能な手術なのか主治医にご相談ください。

当院はこれからも患者さんにとって安心で安全な医療が提供できるよう、一丸となり取り組んでまいります。

手術支援ロボット **da Vinci Xi**

術中の出血が少ない

術後の疼痛が少ない

傷が小さく回復が早い

機能温存が向上する



地域医療
支援病院

認定:2012年11月18日

大阪府
がん診療
拠点病院

認定:2017年3月15日

みみはら

増刊号

2024年7月12日発行

発行人 河原林 正敏 発行 社会医療法人 同仁会 耳原総合病院
〒590-8505 大阪府堺市堺区協和町4丁465番地 TEL 072-241-0501 (代表)
各医療機関様専用 直通ダイヤル TEL: 072-241-0324 FAX: 072-241-0208
URL <http://www.mimihara.or.jp/sogo/>